

令和2年度第1回新潟市区自治協議会会長会議における課題の回答について(案)

1 今後の自治協議会提案事業のあり方について

(1) 令和2年度事業の年度後半での実施の可能性(実施形態の変更内容など)

- ・西区アートフェスティバルの音楽部門は、無観客ながら双方向型オンラインでライブ配信するなど実施方法を工夫して開催しました。
- ・事業を公募し実施する「西区の宝サポート事業」は、予定どおり実施しています。
- ・「支え合いの大切さを広める標語募集」は、186点もの応募があり、最優秀賞「支え合い 勇気を出して 声かけて」のほか、優秀賞6点、計7点を選びました。
- ・「管理不全な空き家にしないための啓発活動」は、ポスター等を作成するなどコロナ禍でもできることを実施しています。

(2) 「with コロナ」時代に対応した自治協議会提案事業のあり方について

以前から、多くの人を集めて行うイベント型の事業は縮小し、事業募集のほかに、地域に密着した課題解決に取り組んでおりました。現状として著しい停滞は起きておらず、今後もこの方向性で活動を続けていきたいと考えます。

2 会議の開催方法、それによる新たな体制・運営の確立について

(1) オンラインの活用事例

第2部会で試験的に zoom を利用して大学生と委員とのオンラインによる意見交換を体験しました。

(2) (1)を参考に、区自治協議会をオンライン開催する場合の課題と、それをクリアする方法

開催するための機器の整備やオンライン参加した場合の委員報償費の取り扱い等を市が検討、調整して欲しい。

3 防災強化(コロナ禍における住民による防災の取り組みの課題や取り組み)に向けた、課題や取り組みについて

- ・地域(地域コミュニティ協議会や自治会等)では、コロナ禍を踏まえた避難所検討会を開催しました。防災士の協力のもと、ソーシャルディスタンスを意識した避難所の設営や、運営についての講習会、パーテーション・段ボールベッドの設営体験等を行いました。
- ・加えて、区では健康福祉課が「コロナについて正しく知って正しく恐れる」をテーマに希望する地域にて研修会を開催しています。
- ・西区自治協議会では、地域ごとの取り組みを注視しながらではありますが、現状としてすぐに取り組むことは難しいと認識しております。
- ・まずは、12月に市が主催の新型コロナウイルス感染症に関する研修会に参加し、感染症に対する知識を深めることとしました。